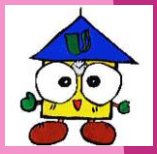
令和元年度　上野小学校　校内研究
自分の考えをもち、表現できる児童の育成
－国語科「話すこと・聞くこと」「読むこと」の学習を通して－



第６学年国語科
単元名　これぞ「川とノリオ」わたしが選んだこの表現

【単元において育成を目指す資質・能力】
○表現に着目してその効果を考え、登場人物の心情を読み取る力
○単元を通して読みを深め、「これぞ川とノリオ」と思う表現を選び自分の考えを解釈文に表現する力

【導入】前時の学習を振り返り、本時のめあてを知る。

ノリオの表現に着目して読むと母ちゃんへの思いがよく分かった。川の表現からはどんなことが分かるのだろう。

課題設定の工夫

自分の書いた解釈文を出版社に送るという課題を設定することで、教材を読む目的が明確になる。

めあて

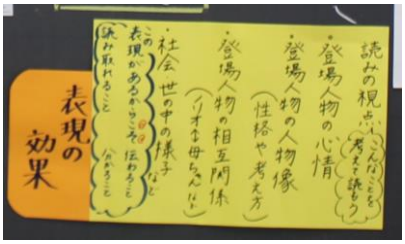
川の表現の効果について考えよう。

【展開】自分が選んだ川の表現の効果について考え、友達と交流する。

どの表現からそう考えたの。

自分の考えをもつための工夫

ノリオが母ちゃんを強く思い出したとき、川の音が増しているので、ノリオと川は連動していると思いました。



読みのモデルの提示
読みの視点を提示し、表現の効果を考えさせる際の助けとする。学習を進める中で、具体的な場面を捉えながら読みを深めるための方法にも気付かせていく。

【終末】本時を振り返り「これぞ川とノリオ」と思う表現を書きためる。

自分の考えを表現するための工夫

読み取りの学習の過程で、友達との交流を多く設定し、他の解釈に触れさせる。毎時間の振り返りで「これぞ川とノリオ」と思う表現とその効果を書きためておくことで、自分の解釈文を書くことができるようにする。

○成果と●課題

○友達と解釈を交流することで、読みが深まる経験をさせることができた。
○読み取りの学習では、「もっと読みたい」「家でも読んできた」など、意欲をもったり、主体的に取り組む児童の姿が見られた。
○読み取りの学習で読みを深めたことで、全員が自分なりの考えを解釈文に書くことができた。
●主人公と登場人物との関係が分かる表現に着目して読んでいくと、主人公の心情や登場人物の主人公に対する思い、関係性がより深く分かる。
●主人公や登場人物の思いはどの表現に表れているのかを読ませていくとよい。